

2 月 26 日 一斉常任委員会

ドーム決算「黒字」見通しは疑問／「ドーム特例？」の基金繰り入れて 田中啓介議員 2 月 26 日 経済観光委員会

2 月 26 日、札幌市は、(株)札幌ドームの 2024 年度見通しとして純損益が 2400 万円の「黒字」と公表し市議会経済観光委員会に報告。日本共産党の田中啓介議員は、営業利益で赤字となるどころドーム(株)に積み立てられている内部留保を活用せず、市民のために使われる「スポーツ振興基金」から 1 億 8500 万円を取り崩して繰り入れることに疑問と投げかけました。

かつて札幌市は、利益を上げている(株)札幌ドームの事業所税を肩代わりしていましたが、住民監査請求で問題を指摘さ

れ、市の監査委員会が返還を勧告。ドーム(株)が返還に応じた経緯があります。その後、2013 年に市は、今後 10 年間で 100 億円を見込むドームの修繕費の一部について、ドーム社に負担させる方針としました。その際、ドーム社の専務は、「本来なら札幌市が負担する分野だろうが、ドーム社の利益が増えているので支出した」といい、市の幹部も「ドーム社で利益が出ているのであれば、その利益はドームのために使わせるのが基本的な考え方だ」(2013 年 10 月 16 日道新)と語っていました。

今回の補正予算は、当時の考え方からみても、大きな方針転換を意味します。

田中市議は、収支悪化分はドーム(株)の内部留保で対応していくとしながら、ドームの利益が基金に積み上げられていることを根拠に、基金会計から繰り入れるというのは、「財源の活用の仕方、たとえ暫定的ということであったとしても、やはり市民が納得できるような取り組みにしていけることが肝要だ」と、一般市民からみて特別扱いとみられかねない財政運営に疑問を投げかけました。

患者サービスは引き続き重要／市民のための病院のあり方で 田中啓介議員 2 月 26 日 経済観光委員会

2 月 26 日の経済観光委員会で田中市議は市立札幌病院の次期中期経営計画の骨子案について、これまであった「患者サービスを充実させ、より快適な療養環境を実現します」という基本目標が位置付けられていないと指摘。「患者の満足度と合わせて、病院職員のやりがい度について、目標をもって実態を把握することは重要なこと」と、位置付けなかった理由について質問しました。

山口康広経営管理部長は、「非常に重

要と認識」「患者サービスの継続的な調査は必要であると考えており、引き続き、毎年度の調査を通じて課題の把握とその改善に努めてまいります」と具体的な取り組みについては今後も変わらないと説明しました。

また、地域連携における長期処方患者率、PET-CT（がんの診断に役立つポジトロン断層撮影検査）稼働件数について目標に達していないことの課題について、次期計画ではどんな取り組みをして

いくのか市の考え方を確認しました。

山口部長は、目標との関連で、「地域の医療機関への訪問を強化するとともに医療機器の共同利用」が課題と説明。

田中市議は、地域の基幹病院であり、高度医療や政策医療で重要な役割を果たす自治体病院である役割を果たすためには、国や自治体の財政的な支えが欠かせないことに加えて、病院の機能維持にむけて引き続き努力を求めました。